

日曜礼拝クラス ダニエル書  
① 「恐れるな、  
神が国々を支配している」

クラス#3 6章、8章  
2011年6月29日



# 1. ダニエルの強い確信と勇気

- \* ペルシャの王ダリウスの時代
- \* BC539年10月12日にダリウス王がベルシャツアルを殺し、王位に就く。
- \* ダニエルは卓越した人生を生き続けた。
- \* 高い地位に就いても態度を変えなかった。
- \* 日に3度祈りをささげることがダニエルの習慣であった。

# I. ダニエルの強い確信と勇気

「神様が天使を送って獅子の口を閉ざしてくださいましたので、わたしはなんの危害も受けませんでした。神様に対するわたしの無実が認められたのです。そして王様、あなたさまに対しても、背いたことはございません。」王はたいそう喜んで、ダニエルを洞窟から引き出すように命じた。ダニエルは引き出されたが、その身に何の害も受けていなかった。神を信頼していたからである。 ダニエル6:23-24

- 神が天使を送って、ダニエルを奇跡的に助けた
- ダニエルは神を信頼していた

## Ⅱ. 雄羊と雄山羊の幻

### - メディア・ペルシアとギリシャ王国の預言 -



BC551: ベルシャツアル王の治世第3年(1節)

対象: アンティオコス4世エピファネス(BC167～  
164)の統治下で酷い迫害を受けたユダヤ人

# 雄羊＝メディア・ペルシャ



- ペルシャを守る霊のシンボルは雄羊であった。
- 戦争に出る王は雄羊の頭のカブトをかぶった。
- 2本の角：最初に長い角＝メディア  
後に長くなる角＝ペルシャ

# 雄羊＝メディア・ペルシヤ



「見ていると、この雄羊は西、北、南に向かって  
突進し・・・」 ダニエル8:4

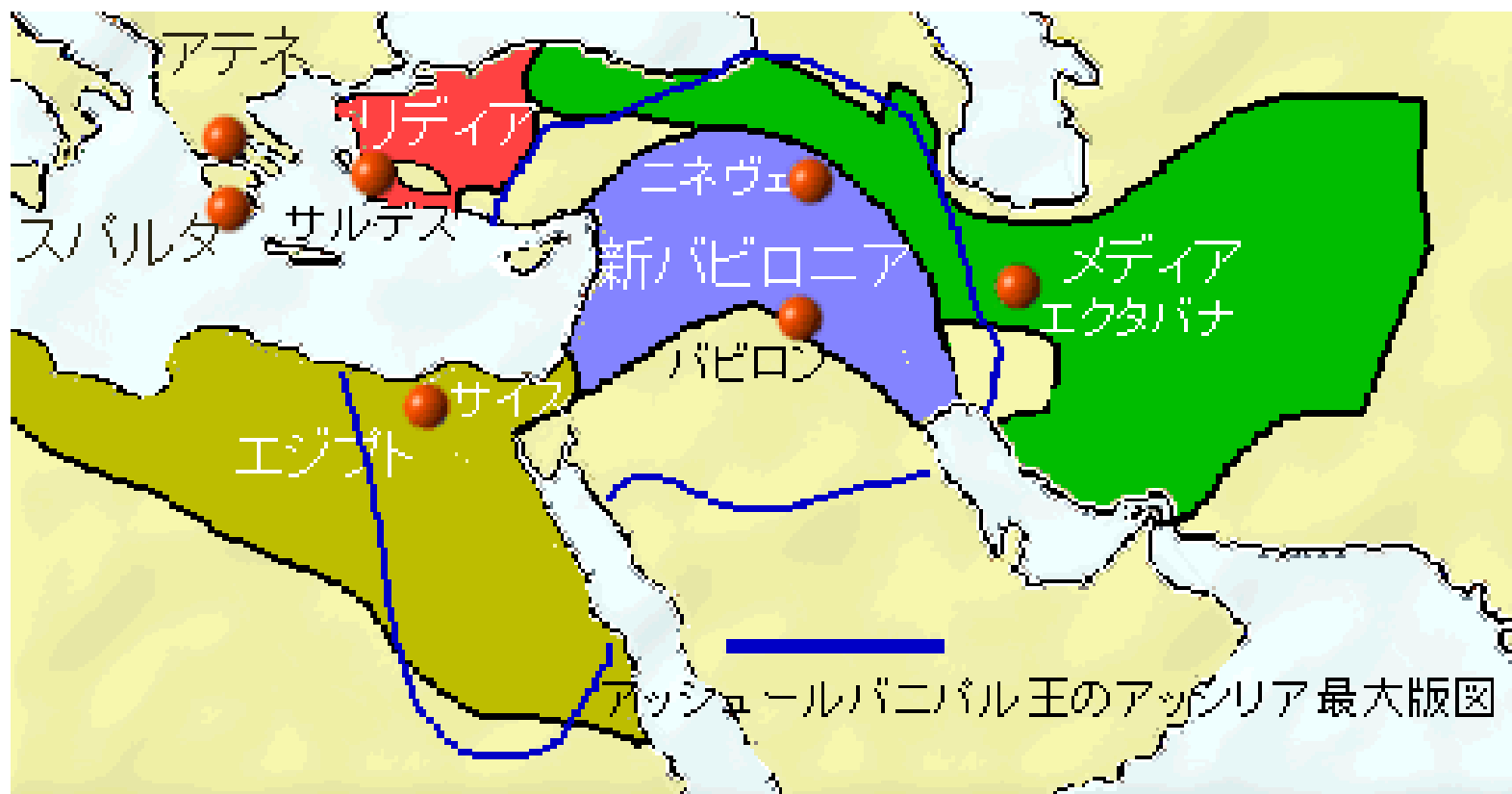
バビロニア(西)

リディア(北)

エジプト(南)



# 新バビロニア帝国



# 雄山羊＝ギリシャ



- ・雄山羊が雄羊を倒す

＝アレクサンダー大王がダリウス王を倒す

「雄山羊は非常に尊大になったが、力の極みで角は折れ、その代わりに四本の際立った角が生えて天の四方に向かった。」ダニエル8:8

- ・アレクサンダー大王の死後、4つの国に分裂

アンティゴノス(東) プトレマイオス(南)

リッシマコス(北) カッサンダー(西)



# フラウィウス・ヨセフス

(37-100AD)

- ・ユダヤ戦争：元ユダヤ軍の指揮官
- ・『ユダヤ古代誌』 95年著
- ・キリストの証言



「さて、このころ、イエススという賢人——実際に、彼を人と呼ぶことが許されるならば——が現われた。彼は奇跡を行う者であり、また、喜んで真理を受け入れる人たちの教師でもあった。そして、多くのユダヤ人と少なからざるギリシャ人とを帰依させた。彼こそは Kristus (キリスト) だったのである。」

# フラウィウス・ヨセフス

- ヨセフスの「ユダヤ古代誌」11書8章
- アレクサンダー大王がユダヤを征服するために訪れた時にユダヤ人達はダニエル8章を彼に見せたと言われた。

“And when the Book of Daniel was showed him (23) wherein Daniel declared that one of the Greeks should destroy the empire of the Persians, he supposed that himself was the person intended” Josephus  
Antiquities of the Jews Book 11 Ch.8

# アンティオコス4世エピファネス

そのうちの一本からもう一本の小さな角が生え出で、非常に強大になり、南へ、東へ、更にあの「麗しの地」へと力を伸ばした。これは天の万軍に及ぶまで力を伸ばし、その万軍、つまり星のうちの幾つかを地に投げ落とし、踏みじった。その上、天の万軍の長にまで力を伸ばし、日ごとの供え物を廃し、その聖所を倒した。また、天の万軍を供え物と共に打ち倒して罪をはびこらせ、真理を地になげうち、思うままにふるまった。 ダニエル8:9-11

# アンティオコス4世エピファネス(BC167～164)

- プトレマイオス朝は寛大にユダヤを治めた。セレウコス朝はギリシャ文化を強制した。
- アテネで生まれ、ユダヤ教を滅ぼそうとし、ギリシャ文化を強制的に取り入れさせた。
- 彼は割礼を受けることを禁止し、割礼を受けた子供と親を死刑にした。
- モーセの律法による献げ物は一切禁止となった。
- BC167年12月に神殿を壊し、豚を神殿の祭壇で殺し、豚の血を祭壇にまいた。
- 「エピファネス」の意味は“illustrious = 有名”。この名を自分で付けたほど非常に高慢な人物。
- ユダヤ人は「エフィマネス」と呼んだ。意味は“狂人”

# アンティオコス4世エピファネス (BC167～164)



# マカバイ戦争(167-165BC)



# マカバイ戦争(反乱)

- マタティアス(BC167)が、セレウコス朝への忠誠心を示すよう偶像を拝めと命じられる(ダニエルや3人の友人と全く同じ状況に置かれる)。
- ゼウスの祭壇を壊し、逃走し、マカバイ戦争が始まる。三男ユダにリーダーシップを委ねる。
- ユダ・マカバイのリーダーシップによる反撃によりBC165年12月25日に神殿を再献
- 165 BCセレウコス朝を制したユダヤ人は自由を獲得。(64 BCまで)ハスモン朝成立。

# ユダ・マカバイ

- マカバイ戦争の指導者
- シリア軍と戦い、打ち破った
- BC165年にエルサレムを奪還する
- エルサレム神殿の聖所を清め礼拝を復活させた





# ハヌカー祭り

BC164年12月25日 マカバイの勝利  
マカバイ戦争によるエルサレム神殿の  
奪回を記念する。



アンティオコス4世エピファネスと異教徒によって汚  
された神殿を清める祭りである。

宮清めの奉獻の祭り (*Feast of Dedication*)、  
光の祭り (*Festival of Lights*) とも呼ばれる。

そのころ、エルサレムで神殿奉獻記念祭が行われた。冬であった。  
(新共同訳)

そのころ、エルサレムで、宮きよめの祭りがあった。時は冬であった  
(新改訳)

ヨハネの福音書10:22

# 神の国の勝利

彼は続けた。「日が暮れ、夜の明けること二千三百回に及んで、聖所はあるべき状態に戻る。」

ダニエル8:14

四つの国の終わりに、その罪悪の極みとして高慢で狡猾な一人の王が起こる。自力によらずに強大になり驚くべき破壊を行い、ほしいままにふるまい力ある者、聖なる民を滅ぼす。才知にたけその手にかかればどんな悪たくみも成功し驕り高ぶり、平然として多くの人を滅ぼす。ついに最も大いなる君に敵対し人の手によらずに滅ぼされる。

ダニエル8:23-25



恐れるな、  
神が国々を支配している